

Title	表紙ほか
Author(s)	
Citation	天界 = The heavens (1942), 22(253)
Issue Date	1942-06-01
URL	http://hdl.handle.net/2433/168405
Right	
Type	Others
Textversion	publisher

天 界

(第 22 卷)

第 253 號

昭和17年第 7 號

本 號 要 目

- 口繪寫眞：1941年十月の火星スケチ (1)
- 巻頭隨筆：南十字星？ 神武の劍星？ 野 尻 抱 影 207
- 1941年度術に於ける火星協同觀測結果報告 (1) 伊 達 英 太 郎 209
- 中等學校に於ける天文教材論 (1) 山 本 一 清 213
- 遊星惑星源流考 (1) 井 本 進 217
- 黒點の相對數式觀測法に就て 大 石 辰 次 221
- 田上天文臺の落成の行事 225
- 5 米鏡が完成したら F. G. レオナード 226
- ガ リ レ オ 傳 (4) 山 本 一 清 229
- 流星觀測入門 (1) 小 横 孝 二 郎 233
- 總 會 略 記 237
- 觀測部月報：流星・太陽・黃道光 238
- り 241

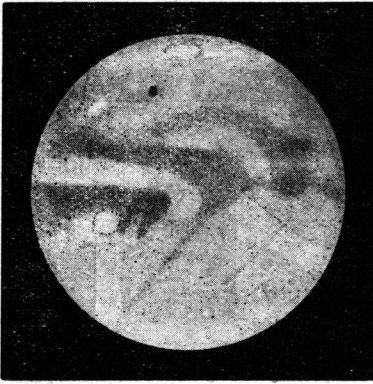


本部：田上天文臺 東 亞 天 文 協 會 事務局：滋賀縣 堅 田

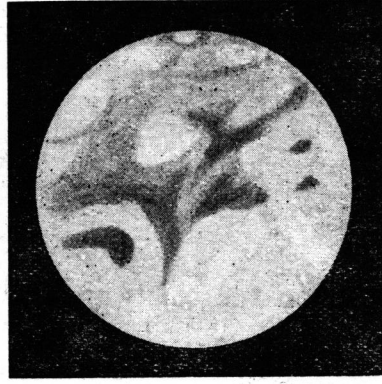
1941年十月の火星スケチ (1)

Sketches of the Mars, 1941 Oct.

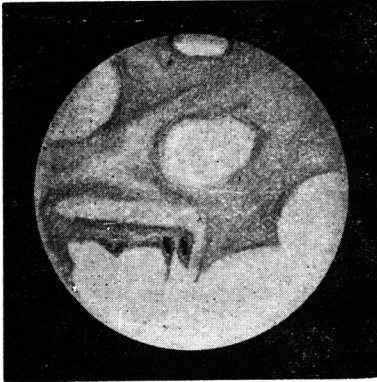
(1) 前田 静雄氏 Mh



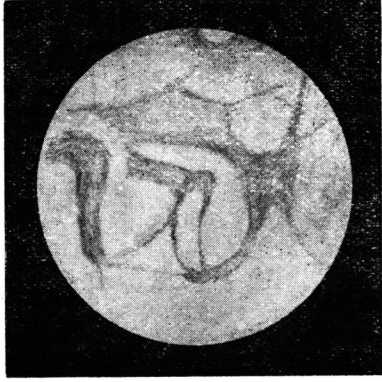
(2) 蔡章献氏 Ss



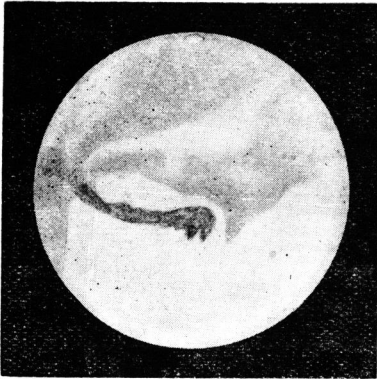
(3) 保積善太郎氏 Hz



(4) 青木 章氏 Ai



(5) 瀧田 正俊氏 Pt



(6) 木邊成磨氏 Kb



(1) Oct. 10, 20.3^h. $\omega=29^\circ$

(2) Oct. 11, 21.0^h. $\omega=36^\circ$

(3) Oct. 12, 19.3^h. $\omega=358^\circ$

(4) Oct. 14, 23.7^h. $\omega=44^\circ$

(5) Oct. 15, 21.5^h. $\omega=0^\circ$

(6) Oct. 16, 22.2^h. $\omega=4^\circ$

天文寫眞 (第2輯、續) ㄆ 1.00 (送料共)

説明書

3. 地球の形を見せる月蝕の寫眞: 月蝕は地球の影が月面を掩ふ現象であるが、この寫眞は、1923年三月2日、ヤキーヌ天文臺のブルース寫眞望遠鏡を用ひて、山本一清博士が月蝕を撮影せるものである。蝕は部分蝕であつたがために、地球のマルイ影の輪廓を非常に大きく寫し、頗る明瞭に其の眞形を畫き出してゐる。

天文寫眞 (第3輯) ㄆ 6.00 (送料共)

説明書

1. 月面の北半: 昔も今も、月は吾人大衆の憧れの一つである。殊に天文器械の進歩により、望遠鏡や寫眞機が活躍するやうになつて、月面の風景は益々吾々の好奇心をそそるものとなつた。この寫眞はキルソン山にある世界一の大反射鏡によつて、月世界の北半部を撮影したものであつて、月齡22の頃であるから、日光は東よりインブロス海の全面を照し、その廣大な面積に、複雑な凸凹の模様は手に取る如く鮮やかに見えてゐる。左下にはコベルニクス山、その右にエラトステネス山、又、インブロス海の西部にはアルキメデス、アウトリクス、アリスティルス、の三山、北岸には暗黒のプラト山など。尙、アペニン山脈からアルプスの連山や夥しい谿谷など見てゐると、自ら月世界の探險をしてゐるかのやうに感じられる。
2. 月面の南半: 上記の寫眞と同じ日、同じ器械で撮影した月世界の南半部である。北半に反して、この南半は一帶に山岳重疊し、中にも、ティヒョ山から、トレミ、ヒパルコスあたりまで、大小無數の噴火口が連なつてゐる有様は、物凄じばかり。

天文寫眞既刊目録

皆、非常に珍しいもので、始めて頒布されるもの、又は日本では殆んど手に入らぬものばかりです。すべて説明文つきです。

天文寫眞 (第1輯) 一枚に付き金1圓40錢 (送料共)

1. 土星 リク天文臺にて觀察されたもの。今回の接近の記念として絶好品。
2. ベルリの皆既日蝕 1937年六月8日、花山の觀測隊が撮影したもの。
3. フィンスタ彗星 1937年七月、賑やかなペルセウス座を北進する景觀。
4. 盛裝のアインスタイン博士 相對原理の創設者の見事な肖像。
5. ママゼラン雲 近年の宇宙研究上に有名な天體で、日本では見えない珍景。
6. オリオン大星雲 白く輝く蝶ネクタイ型の大ガス星雲。一幅の大宇宙畫。
7. ヘルクレス球狀星團 望遠鏡で見得る最大なる宇宙の一つ。
8. 黒點されたる太陽 1940年八月18日會員伊達英太郎氏撮影。

天文寫眞 (第2輯) 一枚に付き金1圓也 (送料共)

1. 火星の寫眞 (3種1組) 1939年の夏、スライファが撮つた貴重品。
2. ヒケリング博士 火星面觀測者の座右に備ふべき寫眞。

會員に關する報告

〔入會者〕

朝 日 亨 (和歌山)	池 永 潔 (和歌山)	木 内 傳 (東京)
三 谷 哲・康 (布施)	狐 塚 泰 治 (大阪)	森 本 浩 好 (神戸)
西 尾 健 次 郎 (芦屋)	松 田 重 雄 (鳥取)	吉 崎 皓 二 (東京)
鈴 木 堅 二 (京都)	羅 増 林 (臺灣)	西 山 峰 雄 (福岡)

〔觀測部入部〕

朝 日 亨 (和歌山) 西 山 峰 雄 (福岡) 木 内 傳 (東京)

注意 御移轉の節には直ちに (前住所をも並記して) 御通知下さい。

觀測部 (へ入部) の方は其旨附記して下さい。

昭和17年分會費・部費領收者芳名

會 費 (4圓)

三 谷 哲 康 (大阪)	三 島 市 大 郎 (延岡)	水 野 彦 三 (大阪)
一 宮 一 男 (宇和島)	六 中 天 體 觀 測 班 (東京)	吉 野 興 一 (埼玉)
渡 邊 文 明 (神戸)	三 崎 善 平 (香川)	福 井 茂 一 (滿洲)
鈴木嘉一郎 (東京)	山 田 榮 三 郎 (東京)	廣 井 猛 (三重)
神 田 茂 (東京)	淺 野 俊 雄 (東京)	西 尾 健 次 郎 (芦屋)
山 田 如 義 (名古屋)	松 田 重 雄 (鳥取)	大 谷 武 (東京)
吉 崎 皓 二 (東京)	豐 中 天 文 部 (豐中)	林 仲 太 郎 (神戸)
吉 田 悅 藏 (滋賀)	朝 日 亨 (和歌山)	

同 (一部完納)

七 高 造 土 館 (鹿兒島)	狐 塚 泰 治 (大阪)	龜 井 啓 一 (和歌山)
池 永 潔 (和歌山)	笹 井 準 二 (岡山)	陸 地 測 量 部 (東京)
羅 増 林 (臺灣)	大 阪 屋 號 書 店 (京城)	宇 都 宮 書 店 (金澤)
木 内 傳 (東京)		

部 費 (2圓40錢)

六 中 天 體 觀 測 班 (東京) 福 井 茂 一 (滿洲) 朝 日 亨 (和歌山)

同 (一部完納)

木 内 傳 (東京)

1942年

七月の天象

(時刻は日本標準時)

Heavens of July

暑さの盛りの七月は、日没から夜半にかけて、涼みがてら、人が皆なにがしかの天文家になつて了う時である。平常から星に親しんでゐる會員たちは、この時こそ、日頃のうん蓄を傾けて、人々の指導者となるべきであらう。年の上半期の間、比較的に少かつた流星が、七月からは、俄然として多くなる。殊に七月の10日以後、まだ空の明けぬ早曉の東の天に、閃々と飛び交ふ流星の眺めは、面白いと言へば面白いが、之れが皆、大宇宙から吾が地球を爆撃してゐる爆弾だと思ふと、一寸氣味悪い感じもする。天體も戦時状態にあるわけである。

太陽は、月初め“双子”の星座にあつて、8日に巨蟹宮の中央にあり、季節は“小暑”となる。それから23日には獅子宮に侵入して“大暑”となり、いよ々々暑さの頂點に達する。

月は、5日が下弦、13日が新月(舊六月朔)、21日が上弦、28日が満月に當る。この運行中、10日の早曉には土星と會合し、其の夕刻は金星と、又、翌12日早曉には水星と會合する。22日の朝早く海王星の北 1° 以内にやつて來るけれど、實際は觀望は容易でない。

尙、10日の午前9時頃には牛座のアルデバラン星が月に掩蔽される。詳細は急報を見られたい。

水星は、太陽の西で、毎日の朝早く、東天に見える。6日は極大離角 21° である。觀測に良い時期である。

金星は、尙、明けの明星であるが、幾らか太陽に近づく。しかし、やはり曉天の王者たる資格を失はない。

火星は、まだ宵の時刻に西の低い空に見えてゐるけれど、光度はいよいよ淡く、色もあせて、哀れである。

木星は、日光の中から再現して、テラと東の天に姿を現はすけれど、まだ觀望の時ではない。

土星は、朝起きの人々には、東天に於ける一大魅力として現はれる。望遠鏡裡の王者である。

天王星は、土星と共に楽しむことが出来る。

黄道光を東天に發見し得る時は七月である。

東亞天文協會

大正9年(1920年)創立, 昭和7年(1932年)改名

會長	山本一清	(滋賀縣草津町大路井420; 同栗太郎上田上村桐生)
副會長	宮森作造	小横孝二郎
理事	宮森作造	觀測部長 木邊成麿
專務理事	中村覺	經理部長 宇野良雄
教育部長	高城武夫	事業部長 大口周作
報導部長	山本一清	理事(無任所) 美田爲三

本部所在地	田上天文臺	滋賀縣栗太郎上田上
事務局所在地	滋賀縣堅田局區內	
經營する天文台	倉敷天文台	岡山縣倉敷市
大阪支部所在地	大阪市電氣科學館	プラネタリウム (大阪市四ツ橋)
臺灣支部	臺北市公會堂內	
黃道光觀測所	廣島縣沼隈郡瀬戸村	

東亞天文協會觀測部

1. 流星課 (課長 和歌山縣有田郡金屋 小横孝二郎, 幹事 宇野良雄)
2. 彗星課 (課長 滋賀縣草津町大路井420 山本 進)
3. 變星課 (課長 木邊成麿, 幹事 小澤喜一)
4. 太陽課 (課長 缺, 幹事 靜岡縣志太郡吉永村吉永1768 大石辰次)
5. 黃道光課 (課長 田上天文臺 山本一清, 幹事 本田 實)
6. 豫報課 (課長 山本一清, 幹事 神田壹雄)
7. 機械課 (課長 滋賀縣野洲郡中里村木部 木邊成麿)
8. 寫真課 (課長 大津市鹿岡町 堀井政三)
9. 遊星面課 (課長 兵庫縣川邊郡雲雀丘 伊達英太郎, 幹事 木邊成麿)
10. 掩蔽課 (課長 大阪市住吉區萬代東4の6 高城武夫)
11. 月面課 (課長 伊達英太郎)
12. 歷史研究課 (課長 兵庫縣武庫郡本山村岡本高石344 井本 進)

觀測部規定 (昭和6年11月22日制定)

- 第1條 本觀測部ハ東亞天文協會ノ目的ヲ達スル爲メノ一事業トシテ, 天體ノ觀測研究ヲ行フ。
- 第2條, 第3條, 第6條 (略)
- 第4條 東亞天文協會員ハ希望ニヨリ本觀測部員トナル事ガ出來ル。
- 第5條 部員ハ觀測上ノ必要ニヨリ課長ノ指導及ビ東亞天文^アプレテン, 東亞天文協會急報並ビニ種々ノ印刷物ノ配布ヲ受ケル。

御申込みは 滋賀縣堅田局區內 東亞天文協會 (電話は堅田郵便局)
(送金は安全, 確實な 振替口座 大阪56765番へ)

天界 第253號

昭和17年5月28日印刷
昭和17年6月1日發行

Ⓢ (定價金40錢) 送料金1錢

編輯兼發行 滋賀縣滋賀郡眞野村大字眞野513

東亞天文協會 (振替大阪56765)
(代表者山本一清)
日本出版文化協會第2種會員(第220038番)

發行所 同上
印刷所 京都市上京區上樺木町千本東入
印刷者 同上
配給元 東京市神田區淡路町二丁目九番地

同上
眞美印刷所〔電西陣3702〕
橋本岩太郎
日本出版配給株式會社